



DBKだより

第21号
2018年10月1日
ドン・ボスコ基金



2018年7月、サレジオ会ローマ総本部で、左から新管区長・DBK代表の濱口秀昭神父、サレジオ会総長アンヘル・フェルナンデス・アルティメス神父、前管区長・DBK前代表の山野内倫昭司教

トピック

モンゴル モンゴルでも異常気象／**パプアニューギニア** 幼児のための学習センター
南スーダン 停戦合意、教会の役割が重要／**ブラジル** ラール・サン・アントニオ孤児院
日本 多文化共生センター東京／**ベトナム** タム・ハー学校

ミサ
第三奉献文

キリストのうちにあって、
一つのからだ、一つの心となりますように

恩人の皆様へ

私は2014年12月4日から今年2018年6月2日まで3年半、サレジオ会日本管区長の務めを果たしてまいりましたが、このたび、教皇フランシスコから、カトリックさいたま教区長（司教）に任命されました。さいたま教区は、埼玉県・群馬県・栃木県・茨城県を含む、カトリック教会の一つの大きな教区です。

この3年半の間、恩人の皆様とDBK [ドン・ボスコ基金] を通して出会えたことに感謝いたします。おかげさまで、たくさんの海外と国内の方々、特に青少年に関わる、支援を必要とする活動を支えることができました。

DBKが毎月スタッフ会議を開く時には、会議に先立ち、最初の30分は、神様がDBKを支援してくださる皆様方一人ひとりを祝福し、必要な恵みをお与えくださるよう、祈りを捧げてまいりました。そして月毎の会計報告を確認するなかで、日々、皆様から寛大な支援を送ってくださっていることを知り、感謝の気持ちで満

たされました。

DBKの責任者として、新しい日本管区長の濱口秀昭神父が引き継いでまいります。次号の「DBKだより」から、濱口神父が巻頭のご挨拶をさせていただきます。

恩人の皆様と共にこの支援運動を一致しながら進められ、助けを必要とする方々のところに、DBKを通して具体的な支援をこれからもお届けできるように祈っています。

今年は、日本各地で豪雨や地震によって大きな被害が発生し、多くの方々が被災されています。悲しみや生活再建への不安の中にある皆様に心を寄せてお祈りするとともに、DBKとしてもカリタスジャパンやカトリック学校連合会を通して緊急支援を行ってまいります。皆様のお祈りとご支援を、引き続きどうぞよろしくお願い申し上げます。

2018年10月

DBK [ドン・ボスコ基金] 前代表 山野内 倫昭^{みちあき}司教

モンゴル モンゴルでも異常気象



モンゴルの草原で若者たちとシスター小島

恩人の皆様方、いかがお過ごしでいらっしゃいますか。今年の夏は、日本では猛暑で苦しみ、自然災害でも大勢の方が亡くなる大被害を受けられましたね。モンゴルよりニュースを見ながら祈りを捧げております。

モンゴルも今年の夏は異常な夏でした。2010年6月、モンゴル語の先生と市内見学に行った時、突然雨が降ってきました。私は急いで折りたたみ傘をさしたのですが、人びとは雨などなんのその、普通に道を歩いています。なぜ人びとは傘をささないのか先生に尋ねると「モンゴルではめったに雨が降らないから、皆、雨を祝福だと思っているのよ」と言われ驚きました。

ところが、今年は異常な雨続きで、道路は水であふれ洪水になり、事故が多発しました。国自体がこれほどの大雨を受け止める備えができていないのです。何度か^{ひょう}雹も降り、ゲルに住んでいる人びとは異常な雨と雹で大変だったと思います。

今年の冬はとても寒いと予想されています。でも、私の心は、日本からモンゴルのことを心にかけ、支えてくださっている皆様のお陰で、いつも暖められています。

皆様から頂いたご寄付は、秋から始まる新学年度で様々な必要が出てまいりますので、そのために使わせていただきます。本当にありがとうございます。

(サレジアン・シスターズ宣教女 シスター小島華子)

パプアニューギニア 幼児のための学習センター



学習センターの司祭、先生、子どもたち

私たちのアライミリ教区は、パプアニューギニアの首都ポートモレスビーから約400km離れた海岸沿いにあります。この地域は道路も通じておらず、電気も来ていません。孤立しているため、村の人びとは経済的发展や医療、教育など多くの面で恩恵を得られず、識字率は非常に低い状況です。

この宣教地を担当しているサレジオ会は、地域を発展させるために、子どもたちの教育に取り組んでいます。神の恵みと多くの人びとの努力により、教区全域ですべての小さな子どもたちに幼児教育と訓練プログラムを実施する学習センター(幼稚園)を3か所建設できました。合計180人の園児と9人の先生がいます。先生たちは皆、村の母親と若い女性です。子どもたちは非常に貧しい家庭から来ているため、学習センターは、子どもたちと先生の学習教材すべてを提供しなければなりません。

私たちは日本のDBKから5,000USドルのうれしい支援を受け取りました。この金額は、2018年度の先生の給与に充てることができます。私たちは教育こそが、地域の変化と発展の根幹であると確信しています。そして教育は常に心の問題です。日本の皆さんの優しい心が、多くの貧しい子どもたちの心に届き、心の救いになったと、また、ドン・ボスコの使命にかなったと信じています。

主がいつも日本の皆さんに豊かな祝福を与えてくださるように、日々の祈りをささげます。また、このミッションを継続的に支援してくださることを待ち望んでいます。

(サレジオ会 ジョセフ・タン神父)

南スーダン 停戦合意、 教会の役割が重要



南スーダンの人々と共に祈るサレジオ会の司祭とイエスのカリタス会のシスターたち

私たちが2012年に南スーダンに入ってから、2013年、2016年と2度の内戦があり、不安定な状態がずっと続いていました。しかし、今年2018年7月9日の独立記念日を前に、なかなか進まずにいた部族間の停戦が、南スーダン近隣国の協力で、ようやく協定合意に至りました。少しずつ、外国へ避難していた人びとが帰国し、国外退避していたNGOなども活動を再開し始め、やっと国の再建に向けて歩き始められるかという状態まで来ました。しかし、国民は政府を信用していません。どうせまたすぐに争いが起こるだろうと、希望をなくしています。

そのような中で、私たち教会の役割が重要になってくると思います。キリストを中心に希望の光を人びとの心にどう灯すことができるのかと。

一つの大きなニュースは、南スーダンに近々、教皇大使館ができます。すでに土地は提供され、建物が建つ予定です。教皇大使となる方はケニア人で、彼は世界各国の難しい場所に教皇大使館を開いて来た方です。教皇フランシスコから南スーダンに派遣され、すでに1軒の家を借りて住んでいます。南スーダンが善き国づくりができるようになるのではと思う反面、状況があつという間に変化するのも事実ですから、さらに祈りと危機感をもって生活しなければと思っています。

日本も、地震や台風、気候の変化等で、大変な状態であると聞きました。何も恩返しできませんが、毎月の初金曜日に、支援してくださっているすべての方々のために、ミサをお捧げしています。心から感謝のうちに。

(イエスのカリタス修道女会宣教女 シスター下崎優子)

ブラジル ラール・サン・アントニオ 孤児院



玉子の殻を使って工作に熱中

このたびは、私たちの願いに心を留めてくださり、ありがとうございます。DBKの皆様の寛大で大きな愛に、心より感謝申し上げます。

ブラジルの現状はますます難しい状況にあります。ビリチバミリンにある

ラール・サン・アントニオ孤児院では、フェジョアード(豆と肉を使ったブラジルの煮込み料理)を作って、少しでもラールの足しにしようとの会議を終えたところに、皆様からの嬉しい知らせが届き、共同体一同喜びの声を上げました。約1か月前に腎臓移植を終えたばかりの12歳の男児のために、付き添い保母を必要としていましたので本当に救われました。感謝にたえません。どうぞ、お祈りをもって引き続き応援をお願いします。私どもも、皆様方のためお祈りいたします。

(イエスのカリタス修道女会宣教女 シスター竹山みち子)

東京 多文化共生センター東京



「たぶんかフリースクール杉並校」で学習する生徒たち
(サレジオ会研修施設 杉並サイデックにて)

平素より、外国にルーツをもつ子どもたちの学びに深いご理解をいただきまして、厚く御礼申し上げます。

温かく見守っていただいている「たぶんかフリースクール杉並校」も2年目を迎え、落ち着いた環境の中で子どもたちは安心して学習に励んでおります。頂きましたご寄付に、心より感謝申し上げます。(次頁へ続く)

現在、東京では公立小中高に在籍する外国ルーツの子どもたちが1万3千人を超え、彼らの教育は切実な課題となっております。「たぶんかフリースクール」で学ぶ生徒は、荒川、杉並両校で50人を超え、埼玉県、千葉県から通学する生徒も増えています。

学びの場と居場所を必要としている、外国にルーツを持つ子どもたちと保護者にとって「たぶんかフリースクール」は、大切な役割を担い続けております。

子どもたちが、笑顔で将来への夢を切り拓いていきますよう、引き続きお力添えをお願い申し上げます。

(多文化共生センター東京 代表理事 柿木典子)

ベトナム タム・ハー学校



子どもたちに学校に通うチャンスを与えてくださって、感謝いたします。この学校に通っている子どもたちの家庭は貧しく、親が子どもたちを学校に通わせるつもりがないため、私たちはこの子どもたちに学ぶチャンスを作っています。また、公立学校で学ぶ年齢を過ぎてしまっている子どもたちにも、サレジオ会は明るい将来のために役立ちたいと考えています。

タム・ハー学校は小学校で、5年生まであります。子どもたちには、生徒だという意識と自信を持たせるために制服を作りました。ボロボロの服で学校に通わなくてもよいように、制服が必要だとも私たちは考えています。DBKの皆様、いつもありがとうございます。

(サレジオ会 レ・ゴク・アン神父)

ドン・ボスコ基金 2017年度決算報告書

(2017年4月1日～2018年3月31日)

(単位：円)

収入の部			支出の部		
寄付希望先	金額	備考	寄付先	金額	備考
東ティモール	0		東ティモール	1,000,000	*1
モンゴル	345,810		モンゴル	1,000,000	*2
パプアニューギニア	0		パプアニューギニア	499,956	
ペルー	3,000		ペルー	499,956	
熊本地震被災地	4,920		熊本地震被災地	100,000	
Kiitos	88,050		Kiitos	200,000	
日本国内	219,640		多文化共生センター	200,000	
ハッピーハウス	101,740		ハッピーハウス	213,676	
ベトナム	105,060		ベトナムシェルター	199,993	
ベトナム学校	140,166		ベトナム学校	150,000	*3
南スーダン	347,110		南スーダン	1,000,000	*4
ブラジル			ブラジル	500,000	*4
ソロモン	241,491		ソロモン諸島	500,000	*3
ケニア	148,885		ケニア	200,000	*1
タンザニア			タンザニア	1,000,000	*1
ポリビア (倉橋神父)	2,599,442		ポリビア (倉橋神父)	2,600,000	*1
任意	6,243,373		寄付送金 小計	9,863,581	
寄付金 小計	10,588,687				
			振込手数料	23,446	
			DBK だより発行分	66,992	
			事務関係経費	21,887	
			諸経費 小計	112,325	
前年度繰越金	1,556,343		次年度繰越金	2,169,139	
収入の部 合計	12,145,045		支出の部 合計	12,145,045	

** 収入の部は2017年4月1日から2018年3月31日までに受け入れた寄付金の金額の総計となっております。

** 支出の部は2018年3月31日までの受入資金を分配して送金しています。

*1 東ティモール、ケニア、タンザニア、ポリビアへの寄付はサレジオ会日本管区本部を経由して送金しました。

*2 モンゴルへの寄付はサレジオン・シスターズ日本管区本部を経由して送金しました。

*3 ベトナムの学校とソロモン諸島についてはサレジオ会員が現地訪問の際に持参しました。

*4 南スーダンおよびブラジルへの寄付はイエスのカリタス修道会日本管区本部を経由して送金しました。

DBKだより 第21号

2018年10月1日

発行人 濱口 秀昭

発行所 ドン・ボスコ基金

〒160-0011 東京都新宿区若葉1-22-12

サレジオ会日本管区本部内

Tel:03-3353-8355 Fax:03-3353-7190

Email: dbkinfo@salesians.jp

http://salesians.jp/about/dbk



DBK[ドン・ボスコ基金]は、特に助けが必要な青少年の保護育成を支援する、サレジオの基金です。

サレジオ会の創立者ドン・ボスコの精神を受け継ぎ、貧困・家庭問題・災害等により、特に助けを必要とする青少年を保護育成する国内外のプロジェクトを支援しています。



DBKウェブサイト
「DBKだより」
バックナンバーも
ご覧いただけます

ご寄付くださる方は以下にお振り込みください。

郵便振替 口座番号 00190-5-292253

加入者名 ドン・ボスコ基金

寄付者氏名の非公表をご希望の方は、
払込用紙に「匿名希望」(☐チェックマーク)をご記入ください。



DBKスタッフミーティングの様子